

高校生たちとの交流 —— 縄文柴犬から生物学までを学ぶ楽しさ

五味 靖嘉

はじめに

昨年・今年と2年続けて、地元大曲農業高校の生徒たちと、縄文柴犬を中心とする勉強会の機会がありました。これは同校の必修科目に3日間の「体験学習」が設定され、その協力体制の一環として実施されたものです。昨年は、女子生徒2名でしたが今年は男子生徒が2名でした。この中で進学希望1名、動物関係に就職希望が2名、残りはまだ未定との事でした。

最初は「この犬たちとどんな接し方をするのか不安」という、皆が同じ気持ちで訪れたようですが、3日間の体験学習を通して「どの犬もそれぞれ個性があり、接し方についても色々な工夫をする事が判った」と喜んでいました。

私のこの学習を通じての目標としては「日本在来種としての縄文犬の理解」を基本として、社会的ルールや生物学の一端でも学ぶことが出来れば良いかな、とのんびり構えて対応する事にしました。生徒たちはいずれも犬との接触は未経験である事を知り、些か驚きもありました。

主として、午前中は学科を中心に、講義と討論形式で1時間の中で5分間の休憩を挟んだ時間割にし、午後は犬の行動や実際の接し方、或いは、犬の食餌配分までを中心の体験学習などを午後3時半頃まで実施としました。この間、私は意図的に、犬に対しての「しつけ」という言葉を、学生たちには教えませんでした。以下はその内容のあらましです。

1. 体験学習のプログラム

従来の犬関係の分野では、その多くが経験的主観的なものが多い中で、生徒たちとは歴史的事実や科学的根拠が述べられるような考え方を基本にするよう注意しました。

1日目-

- 午前:1時間目・食餌-野生動物から学ぶ
- 2時間目・犬の特徴と個性
- 3時間目・ビデオ鑑賞-野生動物の行動(オオカミ家族)
- 午後:4時間目・注意点-犬と人の関係・ルールについて
- 5時間目・犬の観察-仕種の意味の理解
- 6時間目・犬への給餌と観察-個性や特徴

2日目-

- 午前:1時間目・理論学習-犬の埋葬
- 2時間目・理論学習-犬・哺乳動物の共通点
- 3時間目・ビデオ鑑賞と柴犬研究会の説明(理念など)
- 午後:4時間目・犬との「散歩」-その目的について
- 5時間目・犬と人の社会的ルールについて
- 6時間目・犬への給餌と観察-個性や特徴

3日目-

- 午前:1時間目・理論学習-犬と人の関係・歴史から見えるもの
- 2時間目・理論学習-「犬の保存」とは
- 3時間目・討論・質疑応答・レポート作成
- 午後:4時間目・犬の「管理」-人との共存について
- 5時間目・犬への給餌と観察-個性や特徴
- 6時間目・感想・質疑応答

プログラムの作成には色々な意味で悩みました。最終的には上記のようにし、昨年と同様に進行しましたが、実際には中々この通りになりませんでした。屋外の場合は天候にも左右されて変更を繰り返しましたが、所期の目的は何とか達成できたように思います。

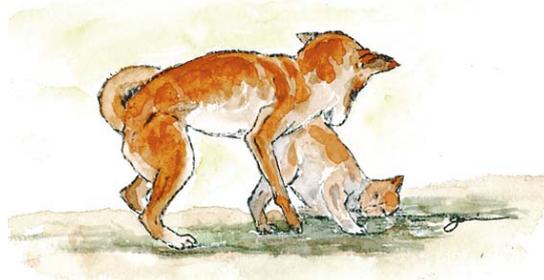
教材に使用したビデオは

- ①神秘のシロオオカミ (NHK)
- ②オオカミの神話と現実 (Isabelle dee)、
- ③ジェヴォーダンの獣 (日活)
- ④雪豹 (2002, 群像舎) などです。

2. 理論学習の成果?

主として、私の講義に対しての生徒の反応としては「人間の都合で、野生動物たちが利用されたりしている」というヒトの傲慢な側面が少し判ったようである。排泄物を汚い・隠す・捨てるという文化について討論した内容では、「都合が悪いと隠す」という考え方は人としての品性や、大きくは社会環境などとの共存関係とか或いはエントロピーの増大となり、自然環境にも悪影響をもたらす。この問題は、そのまま人の関係や社会的な問題に共通するのではないかと言う事などです。

或る男子生徒は「人間よりも優れて賢い動植物が沢山存在しているという事には驚いた。」とか、「仔犬は産まれた環境で遊びながら様々な社会的ルールを学習しているというのはとても判りやすかつ



親子のしつけ

た。」「1万年もの前に、ヒトはイヌをかけがえのない存在として大事に思い、学んでいた事が判った。感動した。」と述べていました。

犬の頭骨の話では、スパンを千年で考えると大きな問題が見えてくるようで、奥が深く、食生活問題などとも関わりがあって難しい問題だと思ったようです。

共通しての感動には、オオカミ家族のビデオを見て、その絆を知り思いやりなど、人と動物の関係で捉えることに感動し、涙を浮かべ言葉を失うほどの驚きを隠せなかったようでした。

3. 屋外での学習から

初日は犬が沢山いるので驚いていたが「犬との接し方を聞いて、段々に上手く出来たので感激した」とは各人の共通点でした。暴れて扱にくいのが「仔犬の抱き方」を「教えてもらった通り試したら上手く出来て馴れてくれた」と、巡回の先生も一緒になって記念撮影をするほど喜んでいました。「複数の犬には餌の順番まで考えて行動する」とか「人と犬のルールを知ると面白くなってきた」「初日と、3日目とこんなに犬と接する事が出来るとは信じられないほどの感激です」と、ほろりとさせられる場面もありました。

4. 生徒が感じる「難しさ」

生徒から「犬とのふれあいの中で、目線を合わせると、無視をするような場合など奥が深くて」判断が難しいとか、犬に給餌する際、「順番を考慮することで様々な意味がある」という、その扱い方の判断は難しいなど。こうした実際の日常的な社会問

題では、経験的とか半ば強制的に、犬を観たりコントロールする機会が多く、実社会でも産まれた環境とか、個性や特徴など、容易に理解することが出来ない要素となっています。

生徒の意見には、「難しい」ことは「しつけ」をする事で解決できる、という見方がありました。しかしこれだけでは、冒頭にも述べた「しつけ」という方法だけでは目指すものと違ってきます。しつけそのものは極めて重要な側面があります。ここでは生徒たちに、しつけとして一律に考えるのではなく、その生物の特徴が大事なんだ、と言う点を学んで欲しい、と言う願いがありました。犬の行動の一つ一つには意味があるし、それを読み取るような姿勢や経験の蓄積こそが、これからの時代に益々問われるのではないのでしょうか。或る生徒は「行動学はとても奥が深くて、そして、色々な意味や解釈もあるのだということが分かりました。」と、目を輝かせて感想を述べていました。



異変だ!

5. 生徒が感じたまとめー(短時間でレポートを書いて貰ったものですが、そのまま転載します。)

犬は、人間をちゃんと観察してどういう人なのかというのを見ているというのに気が付きました。今の社会は、環境を犬にことばで言っているが人間が変わらないといかないのかなと思いましたが、この3日間で今まで知らないことばたくさん知れて本当に良かったと思えました。犬の世話などは大変でしたが、いい勉強になりました。

犬はただ賢いだけではないんだと思えました。犬の行動一つ一つは人間のお手本になるのだと学ばされました。犬の歴史、オオカミの歴史を細かいところまで知れて良かったです。犬達の世話はとても楽しかったです。とても良い勉強になりました。

6. 最後に・・・

昨年と今年は地元の農高生と、また春には岩手県の花巻農業高校生たちとの授業という機会に恵まれて、私は柴犬研究会の「理念」は素晴らしい内容であるという点を、改めて実感することになりました。そして、花巻では縄文柴の交流会が、学生たちを交

えて開催されました。また、地元の学生たちとは、犬の排泄物のことから発展して「都合の悪いものを隠す」と言う問題は、社会的にも品位に欠ける行為だということを、生徒たち自身が討論の中で発言し理解してくれたという、素晴らしい成果を得る事ができました。(2007.09.10 記)